

平成29年度 第2回 社会教育委員の会議 摘録

- 【日 時】 平成29年10月10日（火）午後2時00分～4時00分
- 【場 所】 大牟田市 生涯学習支援センター 1階 多目的室
- 【出席委員】 坂本、古賀、吉里、野田、堺（婦）、笹井、松尾、江崎(君)、上妻、柿川、江崎(美)、堺（裕）（敬称略）
- 【欠席委員】 浦、高安（敬称略）
- 【行政関係者】 中村市民協働部長、中島市民協働部調整監、徳川地域コミュニティ推進課長、大倉野生涯学習課長、境生涯学習課青少年担当課長、新村人権・同和教育課長、徳永スポーツ推進室長、古家地域コミュニティ推進課社会教育主事、上田同課社会教育担当職員

◆あいさつ

中村市民協働部長

◆報 告

1 平成29年度福岡県社会教育研究大会について

江崎(美)委員、上妻委員より、配布資料『研修会参加報告書』に基づき報告。

議長	地域と学校との連携が進められていく中で、社会教育委員はどのような役割を果たしていくべきなのか。
委員	「地域コミュニティスクール」という教育改革の流れがある。「地域の中にある学校」という意味づけで、地域の方が学校経営にも参加している。本市において、即コミュニティスクールの導入は難しいが、地域とともに歩んでいけるよう、今行っていることを確実に実施していくことが重要ではないか。各学校は地域とのつながりをきちんともっているのかといった独自の課題を持っている。学校では「地域コーディネーター」という地域との窓口を担う新しい役職が出来ている。コミュニティスクールだけが先走っているが、まずは学校として地域の課題を的確に見つけ、学校教育で何をしなければならぬのかを考えるべきだと思う。
委員	通学合宿を始めて3年目になる。申込が定員20名に対して30名で、昨年度より参加者が増え、子ども達に人気の事業である。地域と家庭・学校が協力して、事業を作り上げている。

2 平成28年度の会議の意見を踏まえた取り組みの経過について

配布資料『平成28年度社会教育委員の会議の意見を踏まえた取り組み経過報告』に基づき、各課長より説明。

委員	地区公民館等で中止になった講座がいくつあるのか質問した。なぜ実施できなかったのか等、年度末に分かるのであれば教えて欲しい。教えてもら
----	--

	うことで、地域のニーズや PTA が参加しやすくなるための助言が出来るのではないかと思う。
行政関係者	今年度、実施できなかった講座はいくつかある。なぜ実施できなかったのかについて、他の事業とのバッティングや実施時期や対象等、経過も踏まえて報告させていただければと思う。
委員	ほぼ毎日地区公民館に行っている。一方的に地区公民館職員が考えているような印象を受ける、人の集まっていない講座もある。地域のニーズを把握できていないのではないかと感じる。地域と地区公民館の話し合いの場を持つなどしたほうがいいのではないだろうか。
行政関係者	事業の組み立ての際に、公民館利用者や地域の要望による講座と、社会のニーズ・要請による講座がある。個人のニーズと社会の要請のバランスをとりながら事業を実施していきたい。地域力アップ支援事業については、企画段階から地域（まち協）との協議をさせていただいている。
委員	趣味の講座が、地域のニーズに合っていないように感じた。
議長	利用者のニーズの把握について検討していただきたい。
委員	以前はあまり重複はなかったように感じる。それぞれの館で特色のある講座があったから参加者も多かったのではないだろうか。

◆ 議 題

1 協議テーマ「心豊かでたくましい青少年をはぐくむためには」

協議内容は以下のとおり。

議長	皆さんから協議テーマを提案していただき、「心が豊かに育つには」「身体が健康に育つには」という2つの大きな柱が見えたことから、『心豊かでたくましい青少年をはぐくむためには』というテーマを設定させていただいた。まず、みなさんの活動について概要を説明していただきたい。
委員	私は、小学校での活動をしており、今年度は海洋教育に力を入れている。また、クラブ活動にも関わらせていただいている。年間 50 回程度活動しており、身体はきついですが、子ども達の笑顔に救われている。
委員	私は、公民館でサークル活動をしている。講座を受講して身に付けた自分の得意なものを使ってボランティア活動をしている。皆さんに喜んでもらえるように芸の幅を広げている。また、キャロットサービスでも活動している。
行政関係者	キャロットサービスとは、社会福祉協議会が行っている事業で、ボランティアとボランティアが必要な方をつなげている。1時間 600 円（以降 30 分ごとに 300 円）で、草むしりや話し相手をする等、高齢の方でも活動できる有償ボランティアである。
委員	校区コミュニティ連絡協議会から参加している。毎月 1 回の会議を開催するほか、各種研修への参加、類似団体との意見交換会（昨年度は八代市と

	<p>の意見交換会)、校区コミュニティ研究大会の開催等を行っている。</p> <p>前回の会議摘録に「子ども会活動が少なくなってきた」とあるが、子どもの数も役員の担い手も少なくなってきたように感じる。自分の校区では、天の原校区のように校区子ども会を立ち上げようと話を進めている。</p>
委員	<p>体育協会から参加している。体育協会は29の競技団体(少年団も含む)で構成されており、自分はその中で体操協会に所属している。体操協会は、大牟田体操教室を市民体育館で開催しており、三池高校で始まってから50年間続いている。チャンピオンスポーツを目指すだけでなく、底辺拡充を目的に活動している。月曜日・金曜日に開催しており、指導員20名ほどで250名の子ども達の指導をしている。私は小3の男の子を担当しており、挨拶をきちんとすること、褒めることを大切に活動している。</p>
委員	<p>読み聞かせ(草木保育園・羽山台小・羽山台小学童・三池小朝読書・高取小朝読書・子育てふれあい広場「じゃじゃりこみーけ」)の活動をしている。勉強会や本の選定、また講演会にも足を運んでいる。子ども達が「本って楽しい!本が大好き!」と思えるきっかけになればと思う。</p>
委員	<p>子育てサークルから参加している。クッキングファミリーの代表をしている。会員が少なく活動を休止したこともあるが、現在は会員が少し増えてきており、月に1回地区公民館で活動している。他にはアンビシャス広場、子育て情報誌「おおむたっ子」の編集委員長や小中学校での食育活動(孤食や個食等の6つの「こ」食への注意)をしている。</p>
委員	<p>家庭教育委員会から中学校の家庭教育委員長として参加している。母親会の委員も務めている。各中学校のPTA副会長が務めている。家庭教育委員会は、年に4回会合を開いているほか、研修会や視察を行っている(今年度は特別支援学校の文化祭を見学した)。また県の母親代表者会にも参加し、他地区の実践発表を聞かせていただいた。研修や視察を行うことで、視野が広がったり、見識が深まったりしていると感じている。今年度、アロマを使ったリラックス法について研修会を実施する予定としている。</p>
委員	<p>小学校PTA代表で参加している。11月に甘木山学園に視察に行く予定。また、今年度は地域の方と協力して「どんど焼き」を実施し、子ども達が昔あそびに触れる機会も設けられればと思っている。</p>
委員	<p>中・特別支援学校長会から参加している。特別支援学校は子どもの自立を目標としており、自立するためにどんなことができるのか、中学校と連携している。</p> <p>中学校では、ESDによる一生涯を通して学び続ける土台作りをしている。地域のニーズを汲み取り、老人クラブや民生委員と連携した一人暮らしの高齢者宅への訪問、SOSネットワーク模擬訓練へ参加している。また単発ではない防災教育を目指し、知識面と実践教育をしている。体力格差が見られるため、生涯を通してスポーツできる環境づくりが課題。文化芸術面では講師派遣によって専門的な知識を教えていただいております、学ぶ意欲の</p>

	向上や、やる気の向上につながっている。
委員	小学校長会から参加している。感動・達成感を味わう場の設定を、教育課程の中に仕組んでいくために、体験活動を有効に使っている。地区公民館にクラブ活動支援やカヌー教室、親子 PTA ふれあい合宿、アンビシャス広場などをしていただいている。また ESD を通して自分の住んでいる地域をもっと住みよい町にするための学習をしている。市のイベントについては、配布されるチラシなどを使って積極的に紹介している。
委員	ガールスカウトから参加している。年長から 100 歳までの女性が活動している。自分で考えて判断し行動できる女性を育てることを目的に、年齢にあった教育プログラムを作って活動している。日曜日に「えるる」で活動している。大牟田では始まって 60 年を迎えたが、当時ガールスカウトだった子ども達が現在指導者となっている。
議長	皆さんの活動から、共通する課題も見えてくると思う。ESD について、何か課題はあるか。
委員	ESD は、現在は主に学校で普及しているが、一般市民に広めていくために、先月「大牟田市 ESD 推進協議会」が立ち上がった。会が立ち上がったばかりであるため、どう動いていくかはこれから。
議長	学校教育も入っているのか。
委員	ESD は学校から取り組み始めたため、今後は市も一緒にやっっていこうとしている。
委員	ESD の内容は多方面にわたり、皆さんの活動のすべてが ESD の分野に入っている。
議長	事務局として、ESD に関して社会教育委員が共通して持っておくことはあるか。
行政関係者	ESD 推進協議会の立ち上げにあたっては、みらいのまちづくりに地域や市民がこぞって取り組むことを目的に設立された。「ESD」という言葉が分からない人もいる。ESD について必要であれば、社会教育委員の会議の場で説明をさせていただければと思う。
議長	説明の機会があればお願いしたい。いくつか課題が見えた。まず「子ども会活動の減少」。
委員	課題は、予算と人だと思う。子ども会活動が活発でないので、校区子ども会設立のための骨組みはできている。
委員	校区まちづくり協議会で予算をつけて、校区子ども会を設立しようとした。しかし、町内の子ども会から組織の中には入りたくないという声が多く、予算は付けたが校区子ども会の立ち上げには至らなかった。
委員	公民館・自治会は 21 ある。最初は小規模でも少しずつ広めていき、楽しさを知ってもらえれば、徐々に広まると考えている。成功しているところもあるので、話を聞きながらやっていきたい。
委員	PTA の協力がないと難しい。

委員	地区によっては公民館に入らないと子ども会に入れない一方、入っている人は役員になりたくない。話し合いを行い、子ども会に入っていない人は地区委員をすることに決まった。入れる入れないという子ども会なら子ども会はない方が親は楽だと思う。親が PTA や子ども会活動に振り回されている。また、子ども会活動する環境ができていないと感じる。会議に子どもを連れて行くと、近所の方とうるさいと怒られて会議ができないこともある。子どもを家において、子ども会の役員会に出ないといけませんが、子どものための会議に子どもを連れていけないのはおかしいと思う。参加できる環境づくりがまずは必要じゃないかと思う。
委員	私も PTA 会長も経験したし、地域のことも知っている。協力的な人とそうでない人がいる。自分も役員をしたが、とても行事が多く大変だったが楽しかった。子ども達に楽しい思い出をつくってほしいという思いで、活動していた。通学合宿も同様。
議長	地域とのつながりがないと事業はできないけれど、事業を行うことでつながりを作るという目的と手段が逆になっているように感じた。
委員	楽しいだけではできない。
委員	参加しない役員がいれば、参加している保護者からクレームが来る。ただ、参加できない方にもそれなりの理由（仕事が夜まで・一人親等）があり、事情を知っている会長は注意できない。しかし注意しないことにもクレームが入るといった悪いスパイラルが起こる。
委員	言われていることも分かるが、やらないよりはやったほうがいいのではないかと思う。通学合宿をするときも悩んだが、今は成功しているし、保護者からも賛成してもらえている。
議長	「持続可能な」とあったが、体操教室が 50 年も続いている秘訣はあるのか。
委員	指導者の情熱に尽きる。スポーツ市民の祭典でスポーツ都市宣言の唱和をした三池高校の男の子は、大牟田体操教室出身。中学校に入って陸上を始めて、ユースの大会で上位に入賞したことが認められてスポーツ都市宣言を唱和した。体操競技と陸上はまったく畑が違うが、体操で培った運動の能力かと思うととても嬉しい。時々、学校が終わってから後片付けの手伝いに来てくれた。大牟田体操教室出身で中学の全国大会で個人総合で優勝した選手やメルボルンオリンピックに出場された塚脇伸作さんという方もいた。脈々と体操の魂が受け継がれていると感じる。その中の一人としてやっていきたい。
議長	情熱とのことでしたが、リーダーを育てていくことも大切なのではと感じた。 読み聞かせの活動で、本が楽しいというきっかけづくりが難しいとは。
委員	はじめて参加される方には自分が好きな本を持っていきましょうと伝えているが、飛び出す絵本だから子どもが喜ぶというわけではない。勉強会では、読み聞かせはディズニーではなく、原本であるグリム童話を届けるよ

	う言われる。面白い本を読まないというわけではなく、朝から楽しい本を届けたいと、私たちも学んでいる。勉強会や先輩の話を聞きながら、選書させていただいて子ども達に届けさせてもらおうと、子ども達が喜んで聞いてくれたり、「こんな本を読んだら、今日聞いてくれた」「よかったねえ、私も今度その本読ませて」と保護者同士でやり取りをしながら活動している。
議長	より良いものを考えて、子どもの立場に立ってということを忘れてはいけない。
委員	本を好きになるきっかけにもなるかなと思う。小さいころに読み聞かせしてもらっていない家庭も増えてきているので、そういう子ども達にとっても、本を好きになるきっかけとなる担い手になればと思っている。
議長	子育てサークルの活動が休止になったということだが、その原因は何か。
委員	お母さん方が忙しくなられて、子ども達が参加できなくなった。子どもだけで参加したいという声もあったが、サークルのテーマが「親子で一緒に料理をする」なので、子どもだけの参加はできない。参加者が少なくなり、活動を休止していた。しかし、青少年教育担当の広報活動や口コミで、最近少しずつ若いお母さんが増えてきた。15年くらい続いているが、人数が多い時もあれば活動を休止した時もあった。ただ会自体は残しているので、やりたい人が増えれば再開する。
議長	各委員から活動状況をお聞きして、可能な限り協議をさせていただいた。青少年のためにこれからも活動していければと思う。

◆その他

1 中尾市長の出前市長室について

事務局より、配布資料『中尾市長の出前市長室』を基に案内及び説明を行った。

⇒次回会議 11月28日(火) 14時00～予定